

指定緊急避難場所・指定避難所 開設マニュアル



令和2年7月

【目的】

地震、台風等大規模災害が発生した時に、家屋の損壊やライフラインの途絶などにより、多数の町民が避難しなければならないことが予想されます。

このマニュアルは、地域の皆さんが避難をする際の避難所の開設方法をまとめたものになります。発災直後の混乱する中であっても、マニュアルを用いることで避難所を円滑に開設することを目指します。

【災害発生～避難所開設まで】

時系列	住民に求められる行動
発災 3分	<input type="checkbox"/> 身の安全を確保する <input type="checkbox"/> 隣近所の安否確認を行う
30分	<input type="checkbox"/> 地域内での安否確認を行う <input type="checkbox"/> 避難を開始する 避難に支援が必要な人への支援を実施
1時間	<input type="checkbox"/> 避難状況の確認～避難を完了
24時間	【避難所の開設準備～受入開始】 <input type="checkbox"/> 施設の安全を確認する <input type="checkbox"/> 準備のために開錠する <input type="checkbox"/> レイアウトを決定する（屋内、屋外） <input type="checkbox"/> 食料など生活に必要な物資を確保する <input type="checkbox"/> 受付～避難者の受入れを開始する <input type="checkbox"/> トリアージ、スクリーニング <input type="checkbox"/> 役割分担を整理する
	<input type="checkbox"/> 居住スペースを割り振りする

※トリアージとは…

傷病者の緊急度に応じて治療や搬送の優先順位を決めること。医療資源が限られる中で助かる命を最大限にするための措置です。

※スクリーニングとは…

選択、選定、ふるい分けなどを意味する言葉で、災害時に使用する場合は、多数の被災者を仕分けすることを意味します。感染症発生下では発症者と健常者を分ける形になります。

<身の周りの安全を確保し、避難しましょう>

① まずは、自分自身や家族の身の安全を確保しましょう。

② 次に、災害の種別に応じた避難行動をとりましょう。

※なお、屋外への避難が難しい場合は、屋内での安全確保措置をとりましょう。

（大規模地震の場合）

身の安全を確保しましょう

- 揺れがおさまるまで身を守る
- 家の中の家族の安否確認を行う。
- 揺れがおさまったら、使用中の火気を消す。
- 避難の際は、ガス器具の元栓を閉め通電火災を防ぐため電気のブレーカーを切る。
- 周辺の安全を確認して避難する。

(水害（洪水、土砂災害）の場合)

台風や集中豪雨等の水害（洪水、土砂災害）の場合、以下の情報や周囲の状況にも注意して、避難の判断をしましょう。

気象庁が発表する気象警報等（大雨注意報、大雨警報など）

市町村が発令する避難勧告等※

※災害のひっ迫性に応じて発令されますが、必ず段階的に発令されるとは限りません。

高齢者をはじめ、避難に時間を要する人は、早めに避難を開始しましょう。

避難準備・高齢者等避難開始 < 避難勧告 < 避難指示（緊急）

気象庁と県が共同で発表する土砂災害警戒情報

河川の水位に関する情報

自宅周辺の降雨の状況

0. 事前に確認しておくこと

避難とは「難を避ける」ことです。避難生活では感染症リスクに配慮する必要があり、大勢が避難すると過密状態となり、感染症のリスクが上がります。指定避難所だけでなく、ご自身が避難する場所を事前に検討しておきましょう。

(避難にあたって平時のうちに確認しておきたいこと)

- ① 耐震基準（昭和 56. 5. 31 以降建築）を満たしており、自宅での生活が可能な場合は在宅避難（自宅の安全なスペース等）をしましょう。
- ② 親戚や友人の家等へ避難が可能場合はそちらへ避難しましょう。（避難の際は、隣近所や隣組長へ避難先を伝えてから避難しましょう。）
- ③ 車中泊も密接を回避するうえで有効ですが、エコノミー症候群等に十分注意する必要があります。
- ④ パイプハウス（ビニールハウス）やアウトドア用のテントも避難施設として有効です。

1. 施設の解錠

- ① 施設の鍵の所有者及び保管場所を、事前にチェックしておきます。
- ② 大雨警報、洪水警報等が発表された場合、施設管理者等は、避難所の開錠に備えます。

【鍵の所有者リスト】

氏名	連絡先（メールは携帯電話アドレス）		
〇〇〇〇（ ）	電 話	（自宅）	— —
		（携帯）	— —
	メール		@
〇〇〇〇（ ）	電 話	（自宅）	— —
		（携帯）	— —
	メール		@
〇〇〇〇（ ）	電 話	（自宅）	— —
		（携帯）	— —
	メール		@

2. 施設の安全確認

- ① 施設の安全確認を【建物被災状況チェックシート】(P5.6)を使用し、手順に従いチェックをします。
- ② 施設の被災状況によっては、他の施設への移動などを検討します。

【施設の安全確認の進め方】

(手順)

1. 2人以上で危険個所に注意しながら、コンクリート造建築物(P5)・木造建築物(P6)それぞれのチェックシートを用いて、目視による点検を行います。
2. 質問1から順番に点検を行い、質問1～7(外部の状況)までで、Ⅱ又はⅢと判断された場合は、建物内に入ることはせず、飯島町災害対策本部へ連絡してください。
3. 2までに異常がなかった場合は、質問8以降の内部の状況について点検を続けます。
4. 危険と認められる場所については、張り紙をするなどして立ち入り禁止とします。
5. このチェックシートの質問項目に関わらず、建物の状況に不安がある場合は、飯島町災害対策本部へ連絡し、他の避難所への移動など検討します。
6. 質問1～11(木造建築物の場合は質問1～12)を集計します。

判定表	該当項目	I	Ⅱ	Ⅲ
	チェック数			

- ◎ Ⅲの答えが一つでもある場合は、『危険』です。
施設内へは立ち入らず、災害対策本部へ連絡し、他の避難所への移動などを検討します。
- ◎ Ⅱの答えが一つでもある場合は、『要注意』です。
施設内へは立ち入らず、災害対策本部へ連絡し、専門家による応急的な補強を行う等、必要な措置を講じます。
- ◎ I のみの場合
危険箇所に注意し、施設を使用します。
- ★ 余震により被害が進んだと思われる場合は、再度チェックシートで被災状況を点検してください。

【建物被災状況チェックシート コンクリート造建築物用】

避難所名 _____ 点検者 _____ ・ _____ 点検日時 月 日 時間 _____ :

次の質問の該当するところに○を付けてください。

	質 問	該当項目
外 観	1 隣接する建物が傾き、避難所の建物に倒れ込む危険性がありますか？	I いいえ II 傾いている感じがする III 倒れ込みそうである
	2 建物周辺に地すべり、がけくずれ、地割れ、噴砂・液状化、地盤沈下などが生じましたか？	I いいえ II 生じた III ひどく生じた
	3 建物が沈下しましたか？あるいは、建物周囲の地面が沈下しましたか？	I いいえ II 生じた III ひどく生じた
	4 建物が傾斜しましたか？	I いいえ II 傾斜しているような感じがする III 明らかに傾斜した
	5 外部の柱や壁にひび割れがありますか？	I ない又は髪の毛程度のひび割れがある II 比較的大きなひび割れが入っている III 大きなひび割れが多数あり、鉄筋が見える
	6 外壁タイル・モルタル・ガラスなどが落下しましたか？	I いいえ II 落下しかけている、落下している (IIIの回答はありません)
	7 窓ガラスが割れましたか？	I いいえ II 数枚割れた、たくさん割れた (IIIの回答はありません)
内 観	8 床が壊れましたか？	I いいえ II 少し傾いている、下がっている III 大きく傾斜している、下がっている
	9 内部のコンクリートの柱、壁にひび割れがありますか？	I ない又は髪の毛程度のひび割れがある II 比較的大きなひび割れが入っている III 大きなひび割れが多数あり、鉄筋が見える
	10 建具やドアが壊れましたか？	I いいえ II 建具・ドアが動かない III 建具・ドアが壊れた
	11 天井、照明器具が落下しましたか？	I いいえ II 落下しかけている III 落下した
12 □トイレは使えるか □水は出るか □ガスがもれていないか □電気は使えるか (四角に☑)		
その他、目についた被害を記入してください。		

【建物被災状況チェックシート 木造建築物用】

避難所名 _____ 点検者 _____ ・ _____ 点検日時 月 日 時間 _____ :

次の質問の該当するところに○を付けてください。

	質 問	該当項目
外 観	1 隣接する建物が傾き、避難所の建物に倒れ込む危険性がありますか？	I いいえ II 傾いている感じがする III 倒れ込みそうである
	2 建物周辺に地すべり、がけくずれ、地割れ、噴砂・液状化、地盤沈下などが生じましたか？	I いいえ II 生じた III ひどく生じた
	3 建物の基礎が壊れましたか？	I いいえ II 壊れたところがある III ひどく壊れた
	4 建物が傾斜しましたか？	I いいえ II 傾斜しているような感じがする III 明らかに傾斜した
	5 外壁材が落下しましたか？又は外壁材に亀裂が生じましたか？	I いいえ II 大きな亀裂がある III 落下している
	6 屋根がわらが落下しましたか？	I いいえ II ずれた III 落下した
	7 窓ガラスが割れましたか？	I いいえ II 数枚割れた、たくさん割れた (Ⅲの回答はありません)
内 観	8 床が壊れましたか？	I いいえ II 少し傾いた、下がった III 大きく傾いた、下がった
	9 柱が折れましたか？	I いいえ II 割れを生じたものがある III 完全に折れたものがある
	10 内部の壁が壊れましたか？	I いいえ II 大きなひび割れや目透きが生じた III 壁土やボードが落下した
	11 建具やドアが壊れましたか？	I いいえ II 建具・ドアが動かない III 建具・ドアが壊れた
	12 天井、照明器具が落下しましたか？	I いいえ II 落下しかけている III 落下した
13 □トイレは使えるか □水は出るか □ガスがもれていないか □電気は使えるか (四角に☑)		
その他、目についた被害を記入してください。		

3. 避難所のレイアウト

- ・運営に必要な箇所、必要なスペースを割り振り、利用範囲を明示します。
- ・立入禁止区域や危険箇所には、貼り紙などで明示します。

<設置が想定されるスペース（開設時に必要なスペース◎）>

【避難所運営】

分 類	優先	位 置 等
①受付	◎	・玄関近くに設置
②事務室	◎	・玄関近くに受付とともに設置 ・部屋が確保できない場合は、長机等で囲って事務スペースを確保
③広報（掲示板）	◎	・玄関近くに受付とともに設置

【救護活動】

分 類	優先	位 置 等
①救護所	◎	・応急手当などを行う場所。搬送のしやすい位置が望ましい。
②物資 ・物資等の保管室		・救援物資などを収納、管理する場所。食料は、常温で保存できるものを除き、保存しない。
・物資等の配布場所		・物資や食料を配布する場所を設ける。

【避難生活】

分 類	優先	位 置 等
①居住スペース	◎	・3密（密閉、密集、密接）を避ける。 ・世帯間の間隔を2m以上確保する。
②発熱、咳等の症状のある方のスペース	◎	・可能であれば個室が望ましい。（パーティションで区切るなど）
③更衣室（兼授乳場所）		・女子更衣室は、授乳場所も兼ねるので、個室（又は間仕切って）を確保する。
④調理場（電気調理器具用）		・電力が復旧してから設ける。

【屋外】

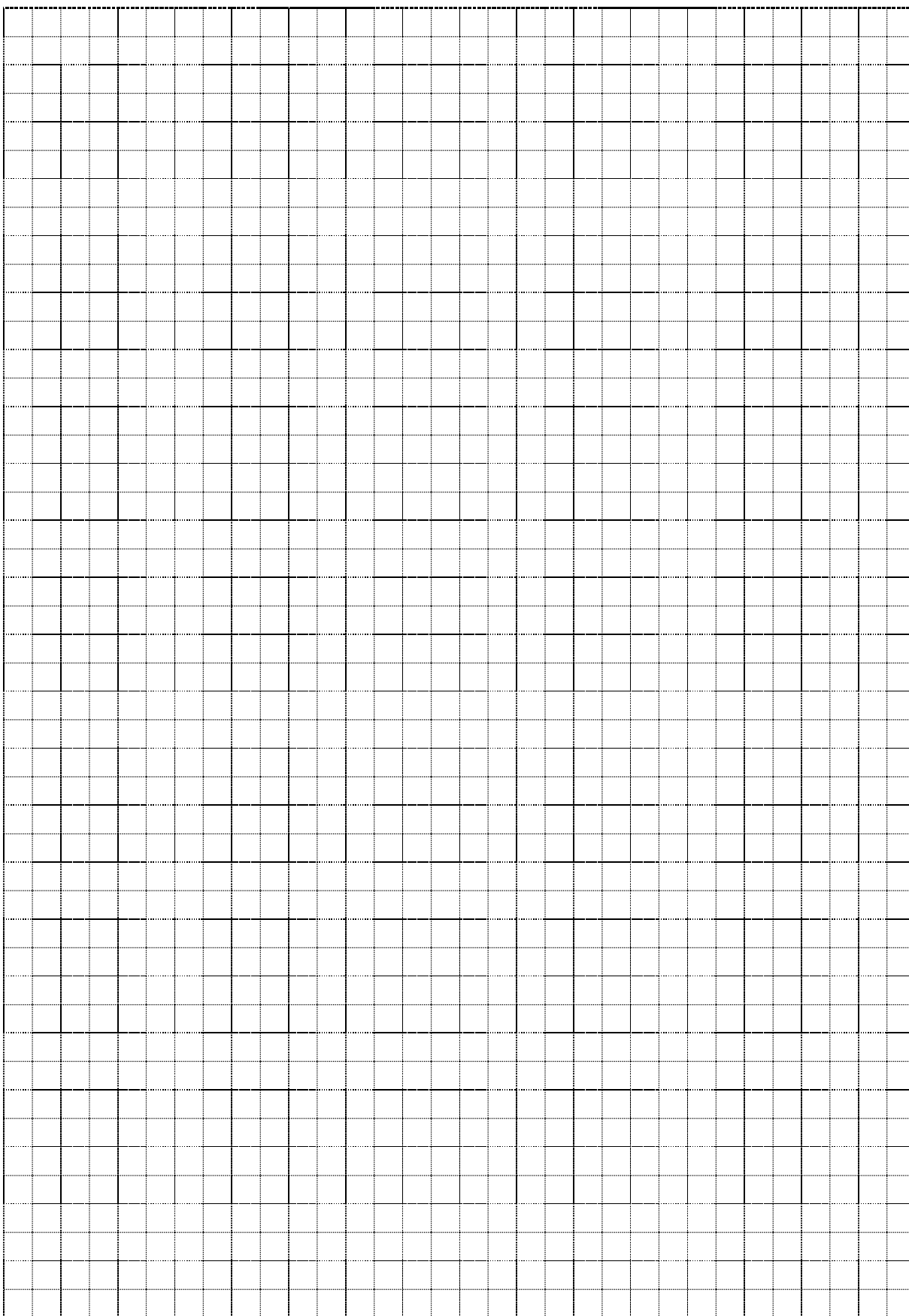
分 類	優先	位 置 等
①仮設トイレ		・既設トイレへ簡易トイレを設置することも一つの方法
②ゴミ集積場		・寝る場所に臭いが届かないところ ・集積車進入しやすく、分別収集に対応できるスペースを確保
③喫煙場所		・受動喫煙に留意
④炊事・炊き出し場		・衛生環境が安定してきてから、炊事、炊出しができる仮設設備を設置する
⑤駐輪・駐車場	◎	・出入りに支障が出ないように配置する
⑥ペット飼育場所		・臭い、鳴き声、アレルギー等によるトラブル防止のため、場所を決めておく。

【利用しない部屋】

【予備スペース】

応急遺体安置場所（原則として避難所には遺体を安置しないが、災害の状況によりやむを得ない場合は、避難スペースとして隔離した位置に確保する。）

避難所レイアウト図（前項の内容を加味して図示。必要に応じ、屋内・屋外と別で記載する）



4. 避難者の受け入れ前

- ① 避難所のレイアウトに基づき、スペースの準備、確認を行います。受け入れ後、スムーズに誘導ができるように各スペースの確認をしておきましょう。
- ② 避難所の備蓄物資を確認します。事前に備蓄数や保管場所の共有をしておきましょう。
(開設時に必要な物資を※印)

機材、物資名		数量	備考		機材、物資名	数量	備考
避難支援拠点	※テント			情報	※掲示板		
	※看板				※携帯ラジオ		
	※のぼり旗			炊出し用	飲料水ポリタンク		
	※長机				ガスコンロ		
	※椅子				ガスボンベ		
	※事務用品				炊き出し用大釜		
	※ガムテープ			避難生活	毛布		
消火用	消火用バケツ				※非常用トイレ		
	消火器				食料品		
	屋外消火栓			飲料水			
救出・救護用	担架			衛生用品	※消毒液(手・物品)		
	投光器				※マスク		
	ロープ				※使い捨て手袋		
	コードリール				※防護服		
	発電機				※体温計		
	ジャッキ				※フェイスシールド		
	カッター				※石鹼		
	※懐中電灯				ビニールシールド		
	※ブルーシート						
	※救急セット						

- ③ 避難者の協力を得て、室内の整理清掃を行うようにします。(居住スペースを世帯毎に区切る線などを引く場合は、整理清掃後に行います。)

④ 受付の設置をします。

- 長机、椅子、筆記用具等の準備
- 消毒液、体温計、マスクの準備
- 避難者名簿、避難者名簿（世帯単位）の準備
- 受付付近に避難所のレイアウト、施設利用ルール等を明示する。
- 避難所看板、のぼり旗の設置

※施設の利用ルールは、平時のうちに関係者にて作成しておくことが望ましいです。

5. 避難者の受け入れ

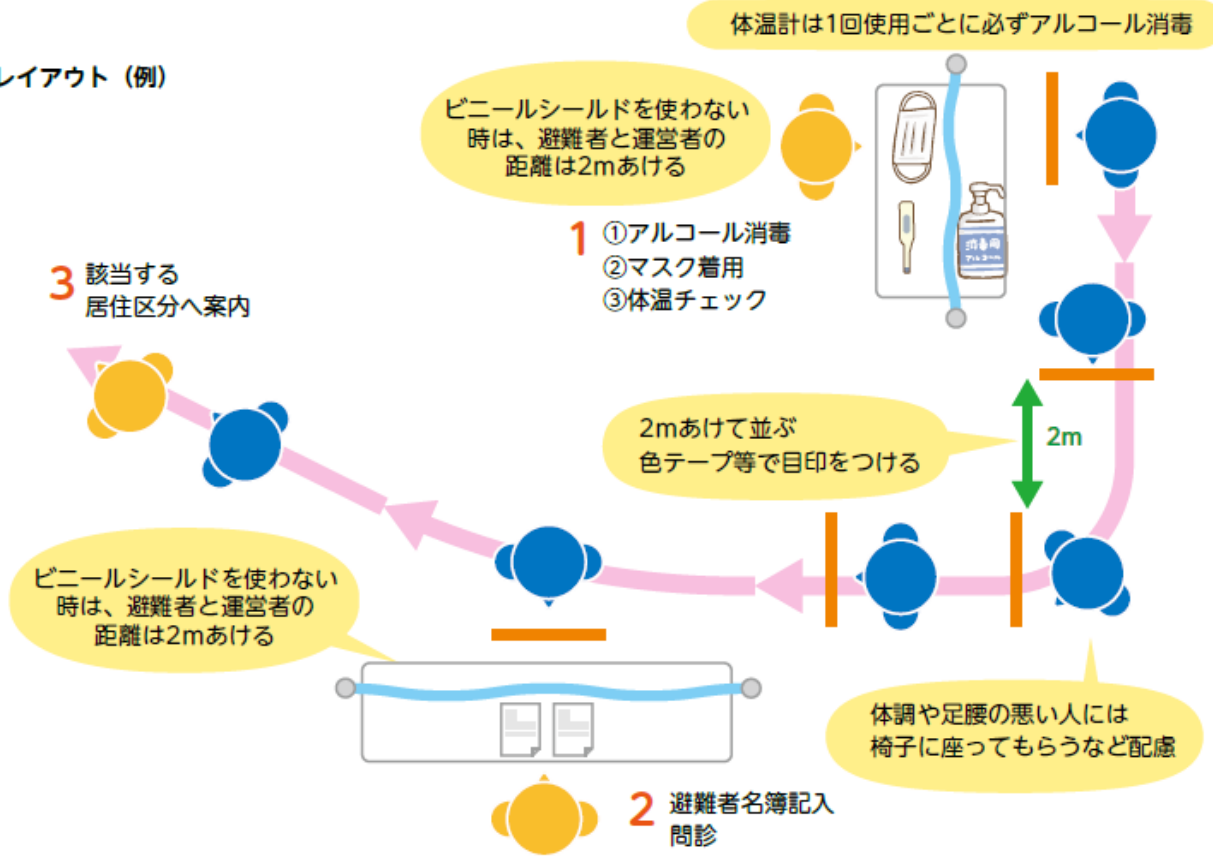
① 避難所の開設準備が整ったときは、【受付時チェックシート】により、避難者の受付を開始します。

- ・避難者と運営者（受付担当）は、2mの間を空けて対応する。
- ・避難者が並ぶ際も、2mの間を空けて並ぶ。
- ・体調や足腰が悪い人には椅子に座ってもらうなどの配慮
- ・車中泊や在宅避難者についても避難者名簿に記入してもらい、可能な限り情報の把握に努めます。

【受付時チェックシート】

チェック項目	チェック	チェック内容
アルコール消毒、マスク着用、体温チェック		受付時には、 <ul style="list-style-type: none"> ・アルコール消毒 ・マスク着用 ・体温チェック をしてもらう。 （体温計は1回使用ごとに必ずアルコール消毒）
避難者名簿の記入		<ul style="list-style-type: none"> ・世帯単位で記入してもらう（高齢者・障害者等要配慮者の場合、必要に応じて記入を手伝う）。 【避難者名簿、避難者名簿（世帯単位）】 ※大人数が集中した場合は、名簿への記入は事後となることもやむを得ないが、できるだけ早い段階で氏名・住所等の基礎的な内容だけでも記入してもらう。
避難所内の割当て・誘導		<ul style="list-style-type: none"> ・早い者勝ちではないことを周知する。 ・できるだけ地域（編成が済んでいれば、居住組）ごとにまとまるように誘導する。 ・在宅避難、親戚や友人の家等へ避難が可能な方は、できるだけ検討してもらってください。
ルール等の周知		<ul style="list-style-type: none"> ・当初は最低限の施設利用上のルールを定めておき、以降順次見直す。（ルール内容例はP13）

受付レイアウト (例)



- ② ルール等の周知をします。平時のうちに避難所のルールを作成しておきましょう。

【ルール作成上の留意点】（* 開設時に決めておき、周知した方がよい項目）

チェック項目		チェック
生活時間*	起床・消灯など。必要に応じ食事・風呂なども決める	
生活空間*	世帯単位で使う、一人当たりの占有面積など	
感染症対策*	手指の消毒、定期的な換気、3密の回避、健康チェックなど	
トイレ*	簡易トイレの使用方法	
ゴミ*	ごみ捨て場所、ごみの処理方法（分別など）	
洗濯	洗濯場所、物干し場	
清掃*	個人の居住空間、共有場所（トイレなど）	
風呂	利用方法、利用時間	
食料・物資*	配布方法、女性への配慮（下着・生理用品など） 要配慮者への配慮（子ども、高齢者等のおむつ、ミルクなど）	
ペット*	ペットの受け入れ（OK or NO）、OKの場合は飼育場所	
その他*	・ 飲酒・喫煙	
	・ 携帯電話の使用	
	・ テレビ・ラジオ	
	・ 立入禁止区域など	
退出	避難所を退出する時の届出方法	

- ③ 避難者の受け入れが完了し、落ち着いた段階で徐々に運営体制の確立を目指します。（運営については「避難所運営マニュアル」を参考にします）

避難者名簿（世帯単位）

令和 年 月 日 午前・午後 時 分記入					世帯代表者				
住所		市町村 自治会			番地 (組)		電話番号 ()		
氏名		性別	続柄	年齢	血液型	病気・ 発熱等	アレ ルギ ー	配慮事項	その他
		男・女				有・無 ()	有・無		
		男・女				有・無 ()	有・無		
		男・女				有・無 ()	有・無		
		男・女				有・無 ()	有・無		
		男・女				有・無 ()	有・無		
避難形態		避難所 ・ 自宅 ・ テント ・ 車中 ・ その他 ()							
避難情報		あなたの家族は全員避難しましたか。 イ. 全員避難した。 ロ. まだ残っている。 → どなたですか。 () () ()							
安否情報		あなたの家族は全員連絡が取れましたか。 イ. 全員連絡が取れた。 ロ. まだ取れていない。 → どなたですか。 () () ()							
安否の問い合わせがあった場合、住所、氏名を答えてもよいですか？ → はい・いいえ									

以下は、避難所退出時に記入していただきます。

退出日時	年 月 日 時 分
転出先	〒 電話番号 () -
備考（この欄には記入しないでください。）	

※内容に変更がある場合は、速やかに申し出て、修正してください。

非常持出品チェックリスト

家族構成にあった品物と量を考えて用意しましょう。定期的に点検することも忘れずに。

●非常持出品（とっさの場合に持ち出せるようにリュックにつめておきたいもの）

品名	チェック日			品名	チェック日		
非常食(乾パン、缶詰、あめなど)				ビニール袋			
飲料水				衣類(防寒用含む)、雨具			
携帯ラジオ(予備電池含む)				軍手			
懐中電灯(予備電池含む)				救急医療品			
ろうそく				常備薬			
ヘルメット				貴重品 (預貯金通帳、免許証、印鑑、保険証)			
ライター・マッチ				現金			
ナイフ・缶切りなど				ラップ			
生理用品				簡易トイレ			
タオル				体温計			

●非常備蓄品（少なくとも7日間は自力で生活できるようにしておきたいもの）

品名	チェック日			品名	チェック日		
食品 (即席麺、レトルト食品、アルファ米、缶詰など)				鍋・やかん			
食品 (調味料、スープ、味噌汁など)				簡易食器			
食品(チョコレート、あめなど)				ラップ・アルミホイル			
水(1人1日3リットル目安)				トイレットペーパー、 ウエットティッシュなど			
燃料 (カセットコンロ、固形燃料、予備のガスボンベなど)				給水用ポリタンク			
毛布、タオルケット、寝袋など				工具セット			
簡易トイレ							
洗面用品							